

かねがさき 社福だより

2015年 第217号

平成27年11月19日発行

主な内容

- P2~7. 第41回金ヶ崎町社会福祉大会について
最優秀福祉作文紹介
- P8. ワークションかねがさき
10周年記念式典について
- P9. 伝言板、事業所紹介
- P10. ふれあい食堂メニュー、
会長のつぶやきetc.



本番まで、あと少し!

11月5日に行われた、町社会福祉大会本番前のひとコマ。
今年のオープニングアトラクションは、社会福祉法人白鶴
会たいよう保育園4・5歳児23名のみなさんによる『ミック
ーマウスマーチ』でした。

ちょっぴり緊張した表情でむかえた本番。

こどもたちのかわいいマーチングと元気いっぱいの掛け声
に、会場内は大きな拍手に包まれました。



第41回金ヶ崎町社会福祉大会開催

11月5日(木)、町中央生涯教育センターを会場に、地域福祉関係者や町民350名が一堂に会し、第41回金ヶ崎町社会福祉大会を開催しました。

オープニングアトラクションでは、たいよう保育園4・5歳児による、「ミッキーマウスマーチ」が披露され、子どもたちのかわいいマーチングに会場が魅了されました。

式典では、社会福祉事業やボランティア活動、在宅介護者等に功労があった12名・2団体と、福祉作文入賞者7名の方々の表彰が行われ、その後の大会宣言では、地域福祉の更なる充実に向けた啓発を図り、「お互いさま」の意識に基づいた福祉のまちづくりの発展を誓い合いました。

第2部の記念講演では、「見直そう！近所力地域力～これからの高齢者問題を考える～」と題し、多田そうべい氏(元殿さまキングス・大人の寺子屋主宰)によるご講演をいただきました。



指揮者の堂々とした礼から始まりました！



かわいらしく、元気いっぱいのマーチング



姉弟で最優秀福祉作文にW入賞!!



第2部は、会場にいる参加者と一体となった楽しい授業形式の記念講演でした。多田そうべいさんが名付けた金ヶ崎第2小学校の級長に突然指名された町内在住の小関敏則さん。音楽の授業では、殿さまキングスの大ヒット曲、「なみだの操」を見事に歌い上げ、会場を盛り上げておりました。小関さん、大変ありがとうございました。



福祉作文の朗読では涙を誘う場面も...



講演後は骨髄バンク支援募金を募りました。多田さんより、「皆様のたくさんの心温まる支援金をありがとうございました。」とのメッセージをいただきました。

金ヶ崎町社会福祉大会長表彰

●社会福祉事業功労者

【多年にわたり、社会福祉の増進に寄与し、社会福祉事業の推進に貢献した方】



高橋 政喜 様

(民生委員・児童委員)



畠山 勝榮 様

(民生委員・児童委員)



高橋 美穂 様

(特別養護老人ホーム友愛園会計係長)



小野 政恵 様

(交流ステーション友愛園看護職員)



及川 良子 様

(たんぼ保育園保育士)

●社会福祉奉仕(ボランティア)功労者

【多年にわたり、奉仕活動に取り組み、社会福祉に貢献した方】



加藤 清一 様

(地域ボランティア活動【清水端地区】)



伊藤 和正 様

(地域ボランティア活動【榴木地区】)



●褒賞(在宅介護者)

【多年にわたり、在宅要介護者の介護に携わってきた方】



高橋 力子 様

(上永徳寺行政区)



宮舘 美礼子 様

(高谷野原行政区)



阿部 ヤエ子 様

(上永沢第一行政区)

●感謝状



田口 恵子 様

(福祉基金寄付)



かみしも結いの会

会長 菊地 芳子 様

(福祉基金寄付)



崎 奥 会

会長 羽階 勝昭 様

(福祉基金寄付)

代理受領 遠藤ヨノ子様

第68回岩手県社会福祉大会長褒賞(在宅介護者)受賞



11月11日(水)、岩手県民会館を会場に、第68回岩手県社会福祉大会が開催されました。当町からは小原和子様(横道山行政区)に褒賞状が贈呈されました。

岩手県共同募金会長感謝状伝達



佐藤 節夫 様

(主唱歳末たすけあい募金寄付)

福祉作文

●小学校低学年の部



最優秀作品

おとうさん大すき

高橋 琉碧 さん (第一小学校2年)



優秀作品

うちのめいじん

宮館 かな さん (西小学校1年)

●小学校中学年の部



最優秀作品

気持ちのかべがなくなれば

佐藤 紳 さん (第一小学校4年)



優秀作品

大切な点字ブロック

朝倉 もえか さん (永岡小学校4年)



審査員特別賞

障がいを持った人の気持ち

平澤 奈桜 さん (金ヶ崎小学校4年)

●小学校高学年の部



最優秀作品

「ありがとう」を忘れずに

佐藤 響子 さん (第一小学校6年)



優秀作品

いつまでも感謝を伝えたい

及川 莉明 さん (三ヶ尻小学校5年)

福祉作文最優秀作品

小学校低学年の部



おとうさん大すき

金ヶ崎町立第一小学校2年

高橋 琉碧

わたしは、よるねる前に、おとうさんといっしょにあそびます。おとうさんは、わたしにのってきたり、こちょこちょしてきたりしてふざけます。わたしがねたあと、よなかの2時ぐらいにしごとに行きます。そして、わたしが学校に行ったあとにかえってきます。たいへんだなあと思います。

わたしのおとうさんは、耳が聞こえません。おとうさんと2人でイオンにおつかいに行くことがあります。お店の人に、

「スプーンをつけますか。」

とか、

「ふくろがほしいですか。」

など言われることがあります。おとうさんは分からないので、わたしがおとうさんに教えます。大きな口でゆっくり話せば分かってくれます。

おかあさんは、おとうさんと手話をつかって会話をします。おかあさんはいいなあ、と思います。わたしは、一ど手話の五十音をおぼえたけど、すっかりわすれてしまいました。大きな声で言っても、ときどきつたわらないときもあるので、手話ができると、おとうさんとたくさん話せてべんりだなあと思います。わたしも、すこしずつ思い出して、おかあさんのようにつかえるようになりたいです。

町には、おとうさんのように耳が聞こえない人や、目が見えない人、足がふじゆうな人など、いろいろな人がくらしています。みんなが同じようにたのしくらせる町になればいいなと思います。そのために、みんなで手話をおぼえたり、こまっているときに声をかけたりして、たすけあえる町になるといいです。

わたしのおとうさんは、耳が聞こえないけど、たのしくてやさしいおとうさんです。わたしは、おとうさんが大すきです。

小学校中学年の部



気持ちのかべがなくなれば

金ヶ崎町立第一小学校 4年

佐藤 しん 紳

ぼくは今、小学校の4年生です。ぼくには6年生の姉がいます。もちろん、同じ小学校に通っています。ぼくの学校では、朝は毎日集団登校をし、木曜日には集団下校をしています。近所の友達何人かといっしょに学校に通っているのです。でも、姉はその中にはいません。それは、姉が病気になってしまったからです。

ぼくが1年生の時、それまで元気だった姉は、とつぜん病気になってしまいました。初めは、運動をすると具合が悪くなって少し休むていどでしたが、だんだんと病じょうは悪くなっていき、ついには入院して手術を受けなければならなくなりました。姉が入院している間、姉の友達は、姉が今どんな様子でいるのか、心配してぼくにたずねてきました。手紙や千羽づるを渡されたときの姉は、とてもうれしそうでしたが、入院生活はぼくから見てもすごくつらそうでした。

たい院して学校にもどってきた姉は、車いすに乗っていました。姉のことをよく知らない低学年の子たちは、そんな姉のことをジロジロ見たり、小さな声で姉のことを話したりしていました。そんな何か特別なものを見るような様子を目にするたび、ぼくはくやしい気持ちになりました。姉は好きでそんな風になったわけではないのに。同じ人なんて一人もいないはずです。だれにだって、他の人とはちがった「自分らしさ」があるはずです。病気やしょう害だって、自分らしさの一つだと思います。

でも、しばらくしたら、そんな回りの目も少しずつ変わってきました。みんなが、思いやりをもって、その人らしさを受け入れるやさしい気持ちになってきたように感じました。そして、同じように姉も変わってきたようでした。「どうして車いすなの」と聞かれても、「病気だからだよ」と答えられるようになりました。姉は、「自分は病気だ」というつらい気持ちに負けないで、強くなったのだと思いました。少しずつ、みんなの気持ちのかべがなくなってきたように思いました。

「他の人とちがうことは変だ」という気持ちは、だれの中でもあるかもしれません。でも、人とちがうということこそ、その人らしさであり、大切にしていかなければならないと思います。「人とちがうことが当たり前」ということが分かれば、みんなの気持ちのかべもなくなっていくと思います。気持ちのかべがなくなれば、いじわるやイジメだってなくなり、みんなが安心して楽しく生活することができるようになるはずです。

来年中学生になる姉は、これからもみんなと同じように登下校することはできませんが、毎日楽しそうにすごしているし、姉がそんな風にすごしていれば、中学校で出会う新しいまわりの人たちの気持ちのかべも、きっとなくなっていくと信じています。

小学校高学年の部



「ありがとう」を忘れずに

金ヶ崎町立第一小学校 6年

佐藤 響子

私は今、元気に通学しています。辛く苦しい日々を過ごしましたが、たくさんの方々に支えられているから笑顔でいられます。

幼い頃の私は、(自分でやる)が口ぐせで人の世話をするしっかり者だったようです。そんな私が突然病気になったのは、3年生の春でした。小さな一つの段差を登るのでも心臓が苦しくなり、さらに真夜中に発作を起こし救急車で病院に運ばれました。そして、長期間の入院を繰り返すようになって、大好きな学校へも行けなくなりました。人に迷惑をかける事がいやな私が、人の手を借りなければ何もできなくなりました。その事を受け入れるのに考えたり悩んだりする時間もないほど、どんどん病状が悪化していきました。

4年生の夏、病院で完全に意識を失い、気付いたら集中治療室にいました。集中治療室での一週間は、家族が付き添えないので、身の回りの事は看護師さんがしてくれました。

今振り返ってみると、(ありがとうを言葉で伝えよう)と意識したのは、この時からだったかもしれません。5年生までは、苦しかったあの頃を思い出す事は怖くて、できるだけ考えないようにしていました。でも、6年生になって今までやりたくても我慢していた事や、できなかった事に一つずつ挑戦し、できる喜びを知りました。友達と一緒に行動した修学旅行、よさこいを踊った運動会、自分に自信を持てるようになった時、私はたくさんの人に支えられていると気付きました。

病院の先生・看護師さん、意識が遠くなった時、私の名前を呼ぶ大きな声が聞こえました。難しい病気だけど一緒に頑張ってくれていると分かるから、私も頑張れます。救急隊の皆さん、相談に行った母に寄り添い、緊急時の対応を整えてくれました。体調が急変しても、すぐに来てくれると思うから安心します。クラスの皆・先生方、私を特別扱いしないで皆と同じように接してくれて嬉しいです。それでも、私を気遣い見守ってくれている事、十分伝わっています。第一小学校はバリアフリーで、車イスが必要な私でも皆と一緒に行動できます。5年生から病弱児学級ができて、(居場所がある・先生が待っていてくれる)と思えるから、学校への一歩をふみ出せます。私を支えてくれる人々がいて、環境が整っているから安心して学校へ行き勉強ができます。人と環境、どちらか一方だけだったとしたら学校に行けなかったかもしれません。私は両方に恵まれている事を幸せに思います。

最後に、私と私の家族を支えてくださっている皆さん、環境を整えてくださっている皆さん、ありがとうございます。今の私はまだ人に支えられてばかりです。でも、いつか何かの役に立ちたい、いつか誰かを支えられる人になりたいと思っています。私にできる事、私にしかできない事は何なのかを、これからも探し続けます。ありがとうを忘れずに。



ワークステーションかねがさき 開所10周年記念式典開催



10月22日(木)、金ケ崎町中央生涯教育センターにて、ワークステーションかねがさき開所10周年記念式典を開催しました。オープニングアトラクションは、利用者による「サザエさんの踊り」が披露され、会場が笑顔に包まれました。

式典には関係者130名が出席し、ご尽力をいただいている6名の方々に感謝状が贈呈されました。

記念講演では、金ケ崎町にゆかりのあるシンガーソングライター松本哲也氏を講師に招き、「ただいま！故郷に想いを込めて」と題し、自作曲やカバー曲などを織り交ぜながら講演をおこないました。



好評だったサザエさんの踊り

感謝状贈呈者



ありすみ内科クリニック
医師 有住朋子様
利用者の健康管理(嘱託医)



株式会社ジュリアン みどりの郷
代表取締役社長 木村忠弘様
授産事業に協力(温泉タオル印刷)



金ケ崎マラソン大会実行委員会
委員長 及川松男様
授産事業に協力(金ケ崎マラソン大会タオル印刷)
代理受領 副実行委員長 千田真一様



みなかい
株式会社三中井
代表取締役 遠藤祐司様
授産事業に協力(贈答品詰め合わせ作業)
代理受領 安藤隆広様



きずなや
株式会社絆屋
代表取締役 佐々木正次様
授産事業に協力(贈答品詰め合わせ作業)



株式会社フジプロダクション
代表取締役社長 堀内一美様
授産事業に協力(車シート縫製作業)
代理受領 岩手支店課長 菊地速人様



歌で想いを伝えたいと語った松本哲也さん



あゆみ福祉作業所時代の関係者より、すてきなお花が届けられました！

ワークステーションのあゆみ

ワークステーションかねがさきは、昭和58年に金ケ崎町手をつなぐ親の会が主体となった「あゆみ福祉作業所」が前身で、平成17年10月に県の認可を受け通所授産施設として、開所しました。平成23年には新事業体系(就労継続B型事業所・生活介護事業所)に移行し、地域に開かれた障がい者の施設として、日替わり定食、仕出し弁当の食堂喫茶事業やタオル印刷、下請け作



業などの就労支援事業と社会参加を目的とした創作活動、余暇活動などをおこなっています。



西学童
防雪ネット
設置

冬支度始めました！

冬に備え、西学童保育所「風っ子クラブ」保護者会では11月7日、約20名の参加のもと、防雪ネットと学童保育室のガラス清掃を行いました。



町内の中でも特に雪の多いこの地域は、冬本番になると西山からの風とともに吹雪に見舞われることもしばしば。子供達が冬でも

元気いっぱい過ごせるようにと、父兄の方達の計らいにより行われております。朝早くから作業にご協力いただきありがとうございました。

まかせて安心!!

現在稼働中です!!

ファミサポ
かねがさき



子育てを手伝ってほしい方(おねがい会員)と、子育てを手伝ってくださる方(まかせて会員)をつなぐ会員制ファミリー、ファミサポかねがさきは、現在稼働中です。登録済みの方や登録希望の方は、社協までお気軽にお問い合わせください。

かねっぴー伝言板

第5回歳末たすけあい演芸大会

- ◆日時 12月6日(日) 13:00~15:30 (開場12:30)
- ◆会場 町中央生涯教育センター・多目的ホール
- ◆ご観覧希望の方は入場券が必要です。
前売り入場券(1枚300円)は社協で取り扱っております。
お気軽にどうぞ。

第2回親と子のつどい

- ◆日時 12月23日(祝・水) 13:30~15:00
- ◆対象者 町内に住むひとり親家庭の(18歳以下の子を持つ)親子。祖父母との同居も参加対象となります。
- ◆会場 ワークステーションかねがさき食堂
(社協となり。ふれあい食堂看板が目印です。)
- ◆参加費 1,000円(1家族)
- ◆内容 親子で力を合わせ、スポンジにデコレーションし、クリスマスケーキを作ってみませんか。
当日はお持ち帰り用ケーキ(1家族1個)を作ります。
試食用ケーキも準備しております。
- ◆申込み 12月7日(月)までに社協へお申し込み下さい。

事業所紹介 その3

~指定訪問介護事業所~

金ケ崎町社会福祉協議会指定訪問介護事業所(ヘルパー事業所)は、現在、ホームヘルパーが13名で各家庭に訪問しております。



わたし達は、利用される方が住み慣れた地域で、心豊かに安心して暮らしたくという気持ちに寄り添い、また、その家族や介護者を支援しながらサービスを提供しています。また、「安らぎ」と「笑顔」も一緒に届けられるよう、日々努めております。これから利用を検討されている方や、関心のある方などお気軽にお問い合わせください。

社協指定訪問介護事業所 介護職員 三田章代
☎ 0197-44-5678

金ケ崎町社会福祉協議会では、介護・看護職員を募集しております。希望される方はハローワーク水沢(☎24-8609)、または社会福祉協議会(☎44-6060)までご連絡ください。



- 今回のメニューは…
- さつまいもご飯(150g) 220kcal
 - 鰯の竜田揚げ 180kcal
 - 春雨の中華風炒め 165kcal
 - 菊の和え物 26kcal
 - 果物(りんご) 16kcal
 - 漬物 5kcal
 - すいとん汁 110kcal
- 合計 722kcal

定食はコーヒー付きで¥500です。

11月24日(火)のワークステーションふれあい食堂&配食サービスのメニューは、さつまいもご飯とすいとん汁、鰯の竜田揚げです。

今が旬のさつまいもは、食物繊維をはじめ、ビタミンCが豊富で、皮の部分にはカルシウムも含まれています。特に食物繊維は、芋類の中では一番多く、便秘の改善や予防に効果的な栄養成分です。また、ビタミンCの働きで、肌のメラニン色素が減り、肌のハリも良くなると同時にがんの予防効果も期待できます

すいとんは、地方によって「ひつつみ」「はっと」「つめり」「とってなげ」の料理名で呼ばれ、中に入れる具材、だし汁、料理法も地域ごとに特色がある郷土料理です。冬本番を迎えるこれからの季節に、野菜も多く取れるすいとんを食べて、身も心も温めてはいかがですか。

(ワークステーションかねがさき栄養士 小河原)

○ふれあい食堂 営業時間：平日11:00～14:00

○配食サービス 毎週火・金曜日 ※祝祭日除く

寄付の報告



9月11日から11月10日までの受付分

○福祉基金

高橋 廣輝さま 30,000円
永山 恵美子さま 50,000円
菊地 玲子さま 30,000円



美術創作集団ら・ふれえど
鈴木 廣志さま
20,000円

三浦 トヨさま 20,000円
佐藤 正さま 2,000円
金ヶ崎高校母親委員会さま 20,000円



城内町並み保存会
「しらいと」さま 26,820円

小石川 純子さま 30,000円
小原 廣記さま 30,000円



○物品寄付

高橋 信次さまより

シャワー用車いす1台・紙おむつ10袋

社会福祉法人金ヶ崎町社会福祉協議会

☎ 029-4503

金ヶ崎町西根南羽沢43 町福祉センター内

TEL: 0197-44-6060 FAX: 0197-44-6106

EX-ル: kinshaky@seagreen.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://www7.ocn.ne.jp/~kinshaky/>



★この広報誌は、共同募金配分金の一部をあてて発行しています

☆次回の社福だよりは来年1月第3週発行予定です

十月一日(木)から三日間、赤い羽根共同募金街頭募金を例年どおり、通勤・通学時間に役場や金ヶ崎駅、六原駅で、午後の買い物時間にビッグハウスやイオンで行いました。私も三日間、各所で募金を行いました。

放課後に駆けつけ、「赤い羽根募金にご協力を願います」と大きな声で呼びかけていた児童、金ヶ崎中学校・金ヶ崎高校生徒達をはじめ、総勢二百名のボランティアの皆さん、募金がとうございました。募金していただき、ありがとうございました。募金していただき、ありがとうございました。募金していただき、ありがとうございました。

地域の地域福祉のため、活動に使われています。また、歳末たすけあい募金も共同募金の協力を願っています。



佐藤 惇 会長

がいのちのつばき④

